

## 喜びの洗礼

使徒 8:34~40

ここには、ピリポがエチオピアの宦官に伝道し、彼に洗礼を授けたことが書かれています。宦官とは役人のことです。39節には、洗礼を受けたエチオピアの役人が「喜びながら（エチオピアに）帰って行った。」とあります。このエチオピアの役人のように、即座に洗礼の喜びを感じる人もあれば、何年もたってから、自分の受けた洗礼をふりかえって感謝する人もあるでしょう。みなさんはどうでしょうか？洗礼の喜びの感じ方は人によって違うかもしれませんが、洗礼が喜びであることには変わりありません。今日は聖書の中で洗礼について教えている箇所を参照しながら、洗礼が私たちに与える喜びについて考えてみたいと思います。

先ず第一に、洗礼は「罪の赦し」の喜びを与えてくれます。ペンテコステの日、ペテロは、イスラエルの人々に向かって「神が、今や主ともキリストともされたこのイエスを、あなたがたは十字架につけたのです。」と説教しました。これを聞いた人々は心を刺され、「兄弟たち、私たちはどうしたらよいでしょうか。」と、その説教に応答しました。ペテロはそれに対して「それぞれ罪を赦していただくために、悔い改めて、イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。」（使徒 2:38）と答えました。ここで「罪を赦していただくために、…バプテスマを受けなさい。」とあるように、バプテスマ（洗礼）が罪の赦しを与えることが分かります。

ところで水は、自然界にごく普通にあるものですが、専門家から見るととてもユニークな物質で、他のものを溶かし込む作用については、特別と言われます。水ほど、多くのものを溶かすことのできる物質は他に無いそうです。水は、ものを溶かし込み、その作用によって、さまざまな汚れを取り除き、洗い流すことができるのです。かなり昔、ひとびとが川で洗濯していたころには、洗剤を使いませんでした。水洗いだけで着物はきれいになりました。水そのものに、ものをきれいにする力があるからです。それで、水は、神が人間の罪を赦し、きよめるときに用いられました。エゼキエル書は「わたしがきよい水をあなたがたの上に振りかけるそのとき、あなたがたはすべての汚れからきよくなる。わたしはすべての偶像の汚れからあなたがたをきよめ、あなたがたに新しい心を与え、あなたがたのうちに新しい霊を与える。わたしはあなたがたのからだから石の心を取り除き、あなたがたに肉の心を与える。」（エゼキエル 36:25-26）と言っています。

しかし、基本的な問ですが、どうして、洗礼が罪を赦すことができ、洗礼の水が罪の汚れを洗い落とすことができるのでしょうか。その答えは、エチオピアの役人が読んでいた聖書にあります。彼は、「預言者イザヤの書」（使徒 8:30）を読んでおり、ピリポが来たときには、53章を読んでいました。彼は、そこに書かれている「神のしもべ」は誰なのだろうと考えていました。人々の罪のために痛めつけられ、苦しめられ、死んでゆくこの人は、預言者イザヤ自身なのか、それとも、だれかほかの人なのだろうか。もし、だれかほかの人なら、いったいだれのことを預言しているのだろうかと考えていたのです。ピリポは、イザヤはだれかほかの人のことを預言し、そのだれかほかの人とは、イエス・キリストであると、教えました。使徒 8:35 に「ピリポは口を開き、この聖書の箇所から始めて、イエスの福音を彼に伝えた。」とあるとおりです。イザヤは、イエス・キリストが人間の罪の身代わりとなって十字架で死なれることを預言していたのです。イエス・キリストは人々の罪の身代わりとなって十字架で死なれ、そして、三日目に死人の中から復活されました。罪の赦しは、イエス・キリストの十字架と復活から来るのです。これ以外に人間の罪を赦し、きよめる方法はないと、聖書は告げています。

貧困、病気、失業、災害、家族の不和、人間関係のトラブル、いじめや差別など、さまざまなものが私たちに苦しめますが、実は、私たちを最も不幸にしているのは、罪なのです。それを認めようが、認めまいが、人間の不幸の根源が罪であることは事実です。罪の解決がないかぎり、問題は本当には解決しません。しかし、イエス・キリストの十字架と復活は、罪を赦し、罪をきよめ、私たちを罪から解放し、罪の問題を解決するのです。これが、「福音」です。世の中には「福音」と呼ばれるものが多くあるかもしれ

ませんが、私たちが信じることができる「福音」は、この他にありません。神は、私たちにこの福音を信じ、この福音を伝え、この福音に生きるようにと、招いておられるのです。

ピリポは、エチオピアの役人に、この福音を語りました。罪を悔い改め、キリストを信じて、洗礼を受けるなら、罪の赦しを受けることができると伝えたのです。エチオピアの役人はこの福音を信じ、自分から洗礼を願い出ました。36節に「見てください。水があります。私がバプテスマを受けるのに、何か妨げがあるでしょうか。」とある通りです。小川か池か、とにかく水があるところでこの役人から洗礼の申し出があったのです。「今しかない」と思ったのでしょうか。37節は理由があって、本文にはありませんが、そこには、ピリポが「もしあなたが心底から信じるならば、よいのです。」と答え、エチオピアの役人が「私は、イエス・キリストが神の子であると信じます。」と信仰の告白をしたことが書かれています。現代も洗礼の水に使われている水は、特別な水ではありません。ふつうの水道水です。しかし、この水に入る者がイエス・キリストが私の罪の身代わりとなって死なれ、私を罪から救うために復活されたと信じる時、洗礼の水は、神のことばと父と子と御霊のお名前によって、私たちのたましいの中にまで働き、罪を赦し、罪の汚れを取り除くものとなるのです。以上のことから洗礼は、私たちに罪の赦しの喜びを与えてくれるのです。

次第二は洗礼は生まれ変わりの喜びを与えてくれます。テトス 3:5 に「神は、私たちが行った義のわざによってではなく、ご自分のあわれみによって、聖霊による再生と刷新の洗いをもって、私たちに救ってくださいました。」とあります。つまり洗礼はキリストを信じる者に「新生」、生まれ変わりを与えてくれるのです。洗礼によって神の子どもが誕生するわけですから洗礼の水は、産湯のようなものです。

イエスは「人は、水と御霊によって生まれなければ、神の国に入ることはできません。肉によって生まれた者は肉です。御霊によって生まれた者は霊です。」(ヨハネ 3:5-6)と言われました。「肉」というのは、人間の生まれつきの性質のことをさします。それは、罪によって損なわれていますので、そのままでは神の国に入ることはできません。どんなに努力をして良い行いを積み重ねたとしても、「肉」が持っている罪の性質は変わりません。神が私たちに求めておられるのは、すこしばかり「良い人間」になることではなく、「新しい人間」になることなのです。では、どうやって私たちは新しい人間になれるのでしょうか。よく、「生まれ変わったつもりで頑張ります。」と言いますが、誰も実際に自分を生まれ変わらせることはできません。日本のある女優の息子が禁止薬物の常習犯で、何度も逮捕されては、裁判で有罪になりました。最初、その息子が捕まったときに母親は「息子には生まれ変わったつもりでやりなおして欲しい。」と言っていました。それでも息子が薬物を繰り返すので、今度は、「息子を産みなおしてやりたい。」と話していました。「息子を産みなおしてやりたい。」つまり、すべて一からやり直させたいという母親の悲痛な叫びは、よく理解できます。ただ、残念ながら自分の力で生まれ変わることができる人はいませんし、どんな母親も、当たり前ですが息子、娘を産みなおすことはできません。しかし、人にはできないことも、神にはできるのです。神はイエス・キリストを信じる者を、神の子として新しく生んでくださるのです。聖書に「しかし、この方(イエス・キリスト)を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとなる特権をお与えになった。この人々は、血によってではなく、肉の望むところでも人の意志によってでもなく、ただ、神によって生まれたのである。」(ヨハネ 1:12-13)とある通りです。洗礼の水は、この生まれ変わりを表わしているのです。

このことは、エチオピアの役人にとって、どんなに大きな喜びだったことでしょうか。エチオピアの役人は、礼拝のためにエルサレムに上り、いま帰る途中でした。彼は、礼拝のために遠くエチオピアから、何日も旅してきました。なんとという熱心でしょうか。けれども、彼は、エルサレムに来て、神殿に入ることが赦されませんでした。祭壇のある神殿の庭に入ることができたのは、ユダヤの男性だけでした。女性は「婦人の庭」というところまでしか入ることを許されず、エチオピアの役人のようにユダヤ人でない人たちは、神殿からもっと離れた「異邦人の庭」にしか入ることを許されませんでした。ユダヤ人よりも

熱心に神を慕っていても、「異邦人」であるために、神に近づくことができない、神の民になることができない、そんな歯がゆさを彼は感じていたに違いありません。しかし、イエス・キリストを信じて、洗礼を受けたとき、エチオピアの役人は、ユダヤ人でなくても、神の子どもとなり、神の民となることができました。イエス・キリストにあっては、住む国の違い、肌の色の違い、言葉の違い、文化や風習の違いは、生まれ変わって神の子となるために何の妨げにもならないのです。罪の汚れを取り除く洗礼の水は、人を神の民として生まれ変わらせるいわゆる「新生の水」でもあるのです。洗礼は私たちに生まれ変わって神の子とされる喜びを与えてくれるのです。

最後、第三に洗礼は聖霊を受ける喜びを与えてくれます。先に読んだエゼキエル書に「わたしがきよい水をあなたがたの上に振りかけるそのとき、あなたがたはすべての汚れからきよめられる。」とありましたが、そのあとで、神は「わたしはあなたがたのうちに新しい霊を与える。わたしの霊をあなたがたのうちに授ける」（エゼキエル 36:25-27）と言っておられます。洗礼は、信じる者に、罪の赦しと生まれ変わりだけでなく、聖霊を与えるのです。テトスへの手紙 3:5 に「神は、私たちが行った義のわざによってではなく、ご自分のあわれみによって、聖霊による再生と刷新の洗いをもって、私たちに救ってくださいました。」とありますが、続く 6 節に「神は、この聖霊を、私たちの救い主イエス・キリストによって、私たちに豊かに注いでくださったのです。」とあります。ペテロは、ペンテコステの日に、「それぞれ罪を赦していただくために、悔い改めて、イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けます。」（使徒 2:38）と説教しました。ペンテコステに使徒に聖霊が与えられたように、洗礼によって聖霊が与えられると教えたのです。洗礼と聖霊は深く結びついています。神は、洗礼を通して、私たちに聖霊を与えてくださるのです。

神の子どもは、神のいのちによって生きるのですが、神のいのちをもたらずのは聖霊です。神が与えてくださる賜物にはさまざまなものがあります。健康も、食べ物も、家族も、友人も、日常生活のさまざまな喜びもみな神からの賜物です。クリスチャンはそうしたもの以上に、神のことばである聖書、祈り、賛美、また、教会と教会をとおして神に仕えるためのさまざまな賜物を感謝しています。しかし、何よりも私たちにあって最高の賜物は聖霊です。なぜなら、聖霊すなわち神は、多くの賜物の与え主だからです。賜物がどんなにすばらしいものでも、賜物を存在させ、人に与えてくださる主にまさることはありません。神は信じて洗礼を受ける者にその聖霊を注ぎ、聖霊をその心に宿らせ、神の子どもとして歩ませてくださるのです。この役人が受けた洗礼の光景は取り立てて輝かしいものではなく、平凡なものでした。しかし洗礼がもたらすものは信じられないくらい大きく豊かなものだったのです。

この後、ピリポはいなくなってしまうエチオピアの役人は一人取り残されました。もちろん政府の高官ですからエチオピアからは何人かが来ていたでしょう。洗礼を受けたあと、ひとりでエチオピアに帰っていかねばなりませんでしたが聖書には彼は「喜びながら帰って行った。」と書かれています。どうして喜べたのでしょうか？ それは聖霊が彼とともにいてくださったからです。彼は、ピリポを見ることがなくても、ユダヤの国から遠く離れて行っても、不安も心配もありませんでした。聖霊が共にいてくださる、その喜びで満たされていたからです。今日、礼拝後、洗礼式があります。洗礼を受ける姉妹達には、罪の赦しの喜び、神の子として生まれ変わる喜び、聖霊を受ける喜びが与えられます。まだ洗礼を受けていない方は、ぜひ洗礼を真剣に考えてみてください。洗礼によって与えられる喜びを体験していただきたいと願います。すでに洗礼を受けた方にとっては、この喜びがさらに増し加わるように祈りつつ、信仰の道を歩んでいただきたいと願います。祈ります。